

PROP PRESS

関西ジャーナル

平成6年(1994年)4月15日(金曜日) (4)

第325号 (第三種郵便物認可)

ボランティア活動最前線 大阪

コンピュータを使って身障者の自立を支援する大阪の市民グループ「プロップ・ステーション」は、ハイテクを最大限に活用する同ステーションは五十人を超えるボランティアスタッフが、機関誌の発行、セミナーの開催、パソコン通信ネットワークの開設など、これまでの市民団体とはひと味違った活動を積極的に行っている。そこで代表の竹中ナミさんにプロップ・ステーションの活動方針を取材してみた。

大阪府北区ボランティアでいくつもの方法として、協会の内にもコンピュータを使っている。竹中さんは「障害者の自立を促進する民間のボランティア団体「プロップ・ステーション」がある。プロップとは「支え合い」という意味。誕生したのは三年前で、主に福祉対策の対象とされた障害者が障害を持たない人と共に、社会の一員として生き

就職が不利になりがちで、日本全国の障害者を対象に行なったアンケートの中で、コンピュータが就職の武器になるのではないかと考えている人が八割もいたことから、コンピュータを積極的に活用して障害者の社会的自立を手助けしようとする



代表 竹中ナミ
竹中ナミは「障害者の社会的自立を手助けしようとする



「コンピュータが関与自立支援」のトーク風景

「えました」と、設立のきっかけを語ってくれた。

同ステーションは、デザイン、プログラム、DTP、P、CADなどの技術習得の場として毎週講習会を開いており、日本電気(NEC)はセミナー教室を提供し、アップル・コンピュータはコンピュータの寄付を行なっている。

また、それらのコンピュータを使って機関誌「フロンティア」も発行している。「こうした講習会に参加

の意識を持っているボランティア団体は数少なく、このように団体の増加が望まれている。

また、「身障者が社会に溶け込めない理由の一つに他人とのコミュニケーションが不足していることがあ

市民団体 プロップ・ステーション

きの第一印象は大切だと、この意味で人とコミュニケーションするために、このネットワークを築き上げていく。外にも目を向けてもらいたいと思っています」

ネット上で何か質問をするのと不特定多数の人が厚意から様々な提案や情報を提供してくれる。こうしたお五五の支え合いによって、プロップ・ステーションそのものが成り立っている。さきにも同ステーションが開設したシンポジウム「コンピュータがひらく自立支援」に、ハイテク福祉分野の第一人者で、市民団体の計画・調査を進めている。現在、視覚障害者用の表でもある川崎医療福祉大学教授・太田茂氏がボランティアで講演。ほかにも四名がパネラーとして参加するなど、同ステーションの活動方針に賛同する者は多い。

竹中さんは「私達は公益の法人化を目指していますが、現在は市民団体だけに資金的なことを考えると頭が痛い。講習会を開く場所がありません。そこへ行くためにはコンピュータを調べる必要があります。竹中さんは「私達は公益の法人化を目指していますが、現在は市民団体だけに資金的なことを考えると頭が痛い。講習会を開く場所がありません。そこへ行くためにはコンピュータを調べる必要があります。竹中さんは「私達は公益の法人化を目指していますが、現在は市民団体だけに資金的なことを考えると頭が痛い。講習会を開く場所がありません。そこへ行くためにはコンピュータを調べる必要があります。」

技術習得で自立促す 就労への機会を開く ふれ合い、交流を促進

「プロップ・ネット」は初心者でも入りやすい雰囲気があります。ここではありのままの自分を表現することができ、日常生活で困ったことを相談することができます。しかし、本の人達も参加。現在、パ

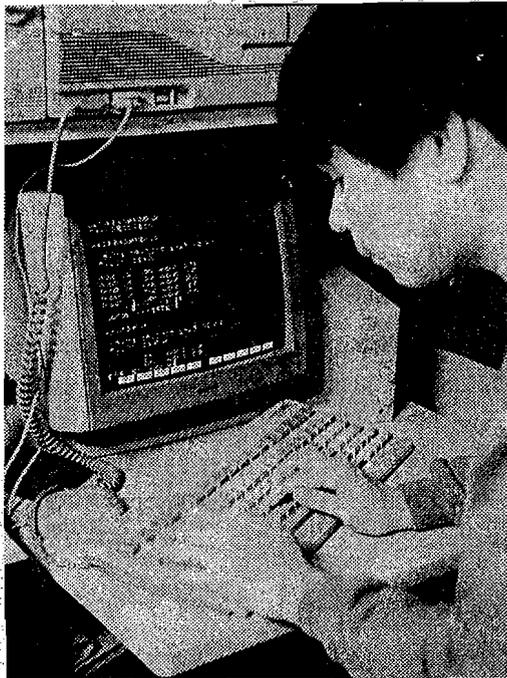
された人がコンピュータを他人とコミュニケーションする一つの手段として、実際に自分でコンピュータを買われ、企業に「プロップ・ネット」として、近々インターネットと連携する予定もある。コンピュータを利用してのコミュニケーションは文字のやり取りで済む。この方法だと言語や聴覚に障害がある場合もスムーズに意思の交換ができる。視覚に障害がある場合も高価だが文章を読みあける機器で対応できる。

実際にネットにアクセスしてみると、リアルタイムの書き込みの多さに驚かされる。話題は他愛もない。とからコンピュータや年にとらな多様な多形。コンピュータでなくても関係なく会話できる。通常、人と初めてと



【連絡先】
プロップ・ステーション
T530
大阪府北区同心1-15-27
大阪ボランティア協会内
電話06-881-0041

「絵」を使うパソコンソフト普及



キーボードを使って、旧方式の基本ソフトでパソコンを操作する全盲のプログラマー亀山英昭さん。操作命令を文字で入力する方式なので、右側の音声出力装置を使って、画面の内容を確認できる＝神戸市東灘区北青木2丁目

キーボードで複雑な指示を打ち込むことなく、画面の「絵」を矢印で指してボタンを押すだけで動かせることをうたい文句にしたパソコンの基本ソフト(OS)の急速な普及が、目の不自由なパソコンユーザーを呼びよせている。新タイプは、これまで文字で入力していた指示を絵で表すため、音声化ができなくなったためだ。欧米では新タイプのソフトでも音声化できるような開発が進められ、一部で実用化しているが、日本語ではめどが立っていない。通産省は近く視覚障害者対応のパソコンシステム作りに向けた研究プロジェクトをスタートさせる予定だ。

視覚障害者に思わぬ壁

操作音声化できず

国内では対応遅れる

これまでのパソコンで、キーボードを使ってコマンドと呼ばれる指示を文字で入力する操作手法が主流だった。各文字に固有のコード(記号)があり、コードを読み取る音声出力装置や点字出力装置などを使って、目の見えない人も操作することができた。ところが、ここ数年、画面上の絵文字(アイコン)を矢印で指し、必要な部分を押すだけで操作できる新タイプが登場。コマンドを覚える必要がなく、操作が簡単なため、急速に普及が進んでいる。

一般ユーザーには便利になったが、新タイプでは画面内容が絵になったため、

これまでのパソコンで、キーボードを使ってコマンドと呼ばれる指示を文字で入力する操作手法が主流だった。各文字に固有のコード(記号)があり、コードを読み取る音声出力装置や点字出力装置などを使って、目の見えない人も操作することができた。

ところが、ここ数年、画面上の絵文字(アイコン)を矢印で指し、必要な部分を押すだけで操作できる新タイプが登場。コマンドを覚える必要がなく、操作が簡単なため、急速に普及が進んでいる。

一般ユーザーには便利になったが、新タイプでは画面内容が絵になったため、

音声化できない。全盲の人は画面から必要な情報を選ぶ矢印操作もできず、使うことができなくなってしまう。また文字も一種の絵として扱われるため、音声化が難しい、という。

国内で過半数のシェアをもつNEC製のパソコンで現在作っているのはすべて新タイプの対応機。ワープロや通信、データベースなどの応用ソフトも新タイプ対応の最新版へと切り替えが進んでおり、新旧の出荷シェアが逆転するのは時間の問題だ。

米国では、障害者の社会参加を権利として認めたA

から逆に取り残されていく。障害者の社会参加を当然のこととして認める開かれた社会にするためにも、メーカー側はさまざまなハードウェアを持つ人たちが利用できることを前提に開発を

進めなければならない。障害者側も声を大にする必要がある。音声化については、障害者専用に関与するのはなく、基本ソフト自体に手を加えていくことが望ましい。

した人たちの雇用機会も奪いかねない状況だ。社会福祉法人「日本ライトハウス」(大阪府)の指導員津田諭さん(31)は、「弱視の場合は画面の拡大などである程度対応できるが、新タイプでは全盲の障害者は操作できず、職業指導のめども立っていない」という。

神戸市在住の全盲のプログラマー、亀山英昭さん(31)は「パソコンがだれにでも使いたくするのとは逆に、視覚障害者にはかえって使えないものになりつつある。昔は視覚障害の人にもコンピュータが使えたのに、といわれる時代になるのではと危機感を持っていきます」と話す。

このため、通産省工業技術院は、今年度から視覚障害者対応の新システムの研究費をメーカーに助成する方針で、国内主要メーカー社も基礎研究を始めた。

KIJIやん&なで&げんたの

観て食べ歩記

神戸ハーバーランド

写真：KIJI

文：げんた、なで

昨年オープンした神戸ハーバーランドへ、まだまだ寒い2月の半ば、KIJIやん、げんた、なでの3人で行ってきました。

神戸は「なで」の生まれ育ったところですが、実は本人もあまり詳しくない。今回の食べ歩きをきっかけにハーバーランド通になってやろうとの野望のもと、何も知らないKIJIやんとげんちゃんは集合場所の神戸駅にやって来るのでした。(なで)

えー、「KIJIやん&なでの観て食べ歩記デート」に、なぜか今回参加した、おじゃま虫「げんた」です。店の紹介などは、なで姉さんに任せて、私は、車いすでのアクセスを中心にコメントさせていただきます。(げんた)



<入口はどこかな～？ 車椅子も楽勝?!>

神戸駅からハーバーランドへのアクセス

JR神戸駅：地上から改札は平坦、高架にあるホームへは、上り・下りとも改札の西にある倉庫の中の貨物用エレベータで行けます。あ、危険なので勝手に貨物用エレベータを利用しないようにね。必ず改札で駅員に案内してもらいましょう。

JR神戸駅からハーバーランドに行くには、神戸駅を海側に出て、メインのエスカレータ、階段入口から少し右側(南西)にあるエレベータで地下に降りる。すると、地下街「デューオこうべ」に出るので、右に曲がって西武百貨店の前を左に進んで、登りのスロープの途中にあるエレベータで地上に上がると、ハーバーランドの入口に出ます。(げんた)

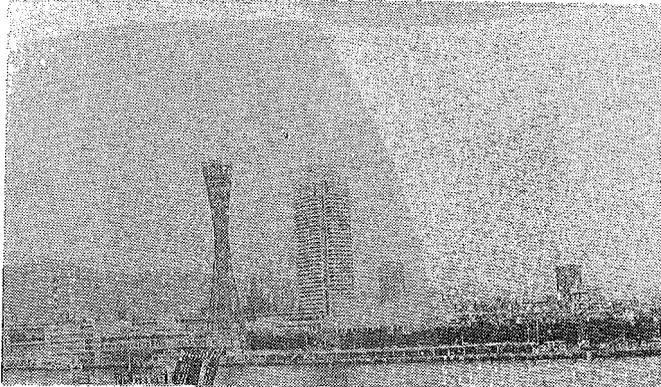
ややこしそうですが、地下にもぐれば、後は野となる、山となる!?なんとかなりますヨ。だって、天下の“神戸市株式会社”の管轄下で開発された街なんですもの。(なで)

腹が減っては

とりあえず、情報誌で入手していた情報をもとに、まずは腹ごしらえ。ホテル「神戸ハーバーランドニューオータニ」の1階にある“ザ・ラウンジ”へ直行。名前のとおり、ホテルでちょっとお茶するところなんです。土曜、日曜、祝日のお昼(11:30~14:00)に限り、ランチ・バイキングをしているのです。当日も11時20分頃行ったのですが、すでに数人のお客さんが待っておられました。人気の程度がわかるでしょ?!メニューもカレーやらサラダやらスープやらと結構豊富。パンの種類が充実していてよかったなあ。さらに、デザートもいっぱい!!フルーツポンチはもちろん、ケーキも次から次へと種類の違うのがどんどん出てきていました。ちょっとしたケーキバイキングでもいけそう。これで1人¥1800なんだから、“うまい!安い!早い!!”の三拍子そろった一押しのお店です。今年の4月頃よりあまりの人気(?)に¥2200になっているようです。

<The Lounge ; TEL.(078)360-7779> (なで)

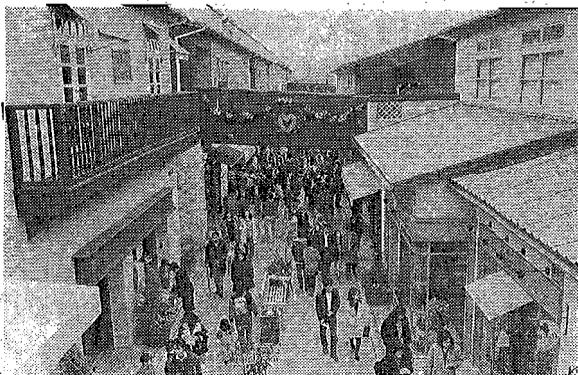
入口は3段の段差がありますが、店員が担いでくれるので大丈夫。店内はわりとゆったりしてるので、車いすが入ると窮屈、なんてことはありません。KIIJやんは、ウェイトレスの超ミニスカートに視線が釘付け!! (げんた)



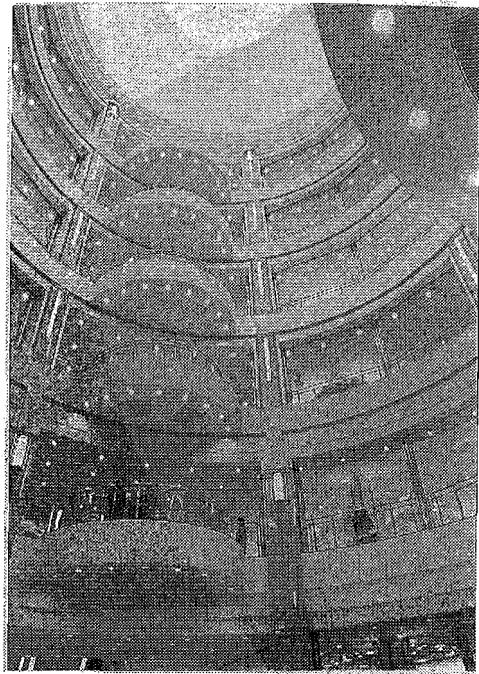
煉瓦倉庫からモザイクへ

ランチで満腹になったところで、ちょっと腹ごなしにお散歩へ。当日はあいにく曇天でした。10分ほどぶらっと歩くと、1898年生まれの煉瓦造りの倉庫に到着。今はこのレトロな雰囲気を利用してビアホール、ステーキ屋さん、スパゲッティ屋さんが入っています。

ここからさらに5~7分歩いていくと”モザイク”に到着。モザイクはその名のとおりに、雑貨屋あり、食事処あり、映画館あり、といろんなお店が集まってモザイクを形成しています。日本でも珍しいオープンモールの町並みが演出されており、また“これが神戸よ!”という海とポートタワーの景色もばっちり楽しむことができます。モザイクにはどこかの障害者の団体さんも来ていたのですが、よう声をかけませんでした。あの人達は今いずこ・・・? (なで)



地上からは、神戸ガス燈通り突き当たりが入口の駐車場奥のエレベーターで2F、3Fに上がれます。また、神戸阪急からの渡り廊下も2Fに通じてます。「モザイク」と聞いて、Hビデオを連想し、期待に胸膨らませて中に入るKIIJやんであった・・・。(げんた)

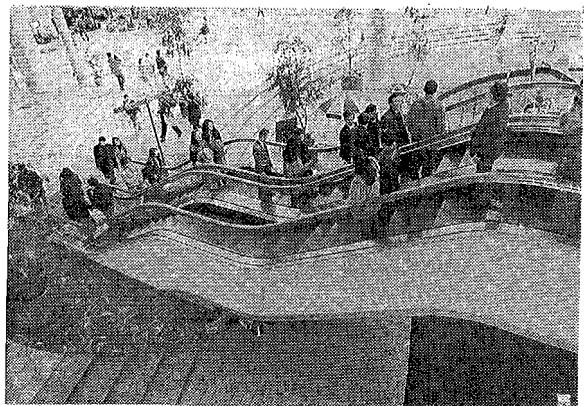


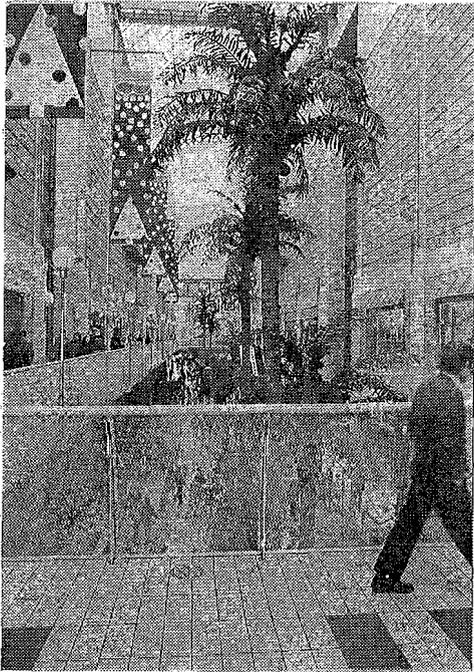
バブルのお土産

JR神戸駅の浜側にドンと一大ショッピングゾーンができて早1年。神戸駅南側の再開発地としてバブル全盛期に計画&着工されたこともあり、豪華な造りの百貨店が目を引きまします。1~6階までドンと巨大な吹抜け。神戸らしく海、波をイメージした店内のゆったりした空間使い。本当にせせこましい日本にあって、贅沢だな〜と感じられるお店です。

百貨店を通り抜け、いざ1階へ・・・ここでちょっとエレベーターを探しましたが、近くに案内板はあるし、で、ドキッとしたのは一瞬でした。エレベーターも数カ所ありますので、慌てなければなんなく移動できるでしょう。(なで)

ハーバーランドのオーガスタプラザのエレベーターで再びデュオこうべに降り、そのまま地下街を通過して神戸高速鉄道・高速神戸駅へ。ここは地下駅。地下街から改札は平坦、改札からホームへは上り・下りともエスカレーター。この駅で阪急と阪神が合流します。(げんた)





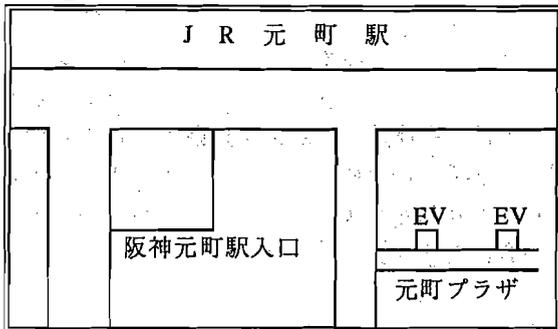
おまけ

めったに神戸に来る機会のないKIIJやんのリクエストにより、神戸の中華街へ足を延ばすことにしました。(なで)

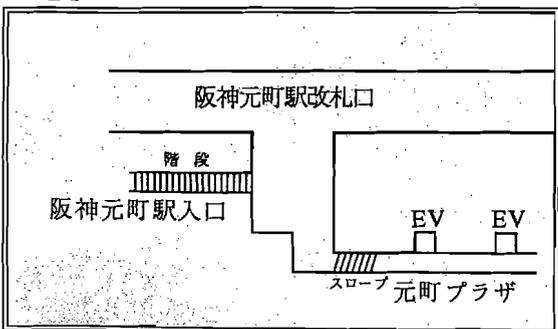
阪神元町駅：地下駅。地上から改札へは、阪神元町駅入口の東側の細い南北の道に入口のある元町プラザののエレベータでB1へ。地下で降りたら西に向かい、スロープを降りて角を右に曲がると阪神元町駅の改札。改札からホームは、上り・下りともエスカレータ。ちょっと分かりにくいので地図を添えます。(げんた)

*地図(げんた作)

地上



B1



しかし、私が中華街のお店をあまりよく知らないもので、満腹状態が続いていた私たちにぴったりのおいしい飲茶屋さんを見つけることはできませんでした。軽く豚まんでも、と入ったお店は、なんと！ラーメン屋さんでした。ラーメンなんてとんでもない！私たちは当初の予定通り豚まんを注文し、さっさと食べて引き上げたのでした。(なで)

このお店、入口は平坦だが、内部はちょっと狭い。テーブルに付くと、壁に貼ってあるメニューが見えない。テーブルに付く前にメニューを見て注文しましょう。

それにしても中華街はさすがに人通りが多いな～。負けずに人混みをかき分け進むべし。(げんた)

雨が降らないうちに・・・

阪急三宮駅：南側からは段差があるので、素直には改札に行けません。プランタンに入り、エレベータで2Fへ、ここで歩道橋に出て西に向かい、ちょっと急なスロープを降りて北に行くと改札に行けます(そごう百貨店前から直接スロープを上がって歩道橋に入ってもよい)。ホームへは上り・下りともエスカレータ。北側からは素直に改札に行けます。(げんた)

今度みんなが来るまでにはおいしい飲茶さんを調べておこうと思ってるので、これに懲りずに、また神戸に遊びに来てね！！(なで)

「おじゃま虫」の存在が面白くないKIIJやん。次回はなにやら車いすで行けない所の観て歩記を企てるそうな・・・しかし、「おじゃま虫」は、また現れるかもしれないのだー。次回をお楽しみに。(げんた)

「感搜文」

遠くで

近くで

見つけたモノ

スラッシュのアメリカ体験 (前編)

バンガード
視覚障害部VANGUARD!
品川博之 (スラッシュ)

第1部 純情編

「感搜文」というタイトルは、何かかっこいい当て字でもあればと考えてみたのですが……。皆さんに何か感じる部分を搜してもらえればとムリヤリの意味を付けています。

「来てもうたがな」の巻

燦々と日光が降りそそぎ、緑ゆたかな田舎くさい町、それが実際に訪れる以前に抱いていたパークリーという都市のイメージなのでした。

1994年1月1日午前11時、サンフランシスコ国際空港に到着。11時間近くも飛行機の中に閉じこめられていたので地に足を付けた時はほっと一息。「ああ、アメリカだー」と感動することもなく、わざわざ迎えに来てくださっていた寮のスタッフの車に乗ってパークリーへ入ったのでありました。事実これが2度目のUSAということと、飛行機に搭乗した時から日本語とはさよならしたということで、11時間前にすでに異国の地へと体を突っ込んでいたことになるので、僕を無感動な奴とは呼ばないで！さすがに空港でおっきなトイレに入った時はハピネスを感じましたけど。

僕が住んでいた寮は5階建てで、4階と5階は改装中、2階と3階はそれぞれ16室ありました。シング

ル・ツイン・トリプルと部屋によって異なり、僕が住んでいた216号室はシングルで、家賃は1日なんと20ドル！今思えばアパートを借りて住めば安上がりだったなあと後悔しているのですが。ちなみにアパートの家賃はルームメイトといっしょに住むのであれば1ヶ月350ドル程度からあるとのこと。少し不便な場所であれば一人住まいでも同じような家賃で借りれるそうです。僕がいた寮は家賃が高いただけあって、それぞれの部屋には電子レンジと冷蔵庫が完備されていて、各室の番号は点字でも表記されており、障害者用のバスルームもありました。玄関先の2段の階段を登り降りするためにリフトが設けられていました。ただ部屋にはアリの大量にいて、これは悩みの種でしたけど。ベッドで寝ていると体の所まで這い上がってくるんですからたまったものではありません。いくら僕のマスクが甘いからって！さすがにアリ君達にボイズンを与えるとたちまちおとなしくなってくれました。この時期はちょうど韓国で大学が2ヶ月以上もの長期休暇に入っていたこともあり、ほとんどの寮生は韓国人で、4、50人の寮生の内、日本人は6名でした。

1日目は疲れていたせいもあり、スーパーで朝食のための買い物を済ませると夕食を食わずにベッドに入り、2日目の昼をむかえました。頭痛を感じたので続けて眠り、気が付くとすっかり夜になっているのです。頭痛はまだ治まらず、食事をすればなんとかなるだろうと判断した僕は、中華料理を食べに行くことにしたのでした。もちろんまだ店の場所は分からなかったもので、歩道で通りすがりの人を捕まえ、またその人が親切な人で約150メートルほど離れた店まで案内してくれたのでした。店に着くまでは、午後の9時を回っていたことと、酔っぱらいが多かったこと、そして寮からどんどん離れていったこととで、どこか怪しげな場所に連れ込まれ、吊るし上げられるのではないかと不安ではありました。が、食欲には勝てず、それだけにテーブルに着いた時にはオキドッキイ (OKの意味の会話英語) という感じでした。「横浜ステーション」という、うさんくさそうな店の名前には「何だかなあ」と呆れてしまいましたが。しかし、めちゃくちゃに辛くて山盛りのマーボウどんぶりが3ドルで食べられたので、まあこの際店の名前は我慢しといたるかな。さすがにそれでもって頭痛はすっかり治ってしまいました。



DSPにて

「ショック～」の巻

1月12日、快晴の朝、同じ寮に住む友達二人と共にELP（イングリッシュ・ランゲージ・プログラム）のプレイズメントテストを受けるべく、UCバークリー（カリフォルニア州立大学バークリー校）のキャンパスに向かいました。あっそうそう、すっかり書くのを忘れてましたが、僕がバークリーに行った目的は、UCバークリーが持つELPという外国人のための英語学校の8週間のコースに参加するためだったのです。以前から英語を母国語とする国で生活してみたかったので、この1月からサンフランシスコに程近いバークリーに滞在していたのでした。この学校は英語を勉強したい人ならだれでもが参加できるようにクラスが用意されているので、英語のレベルを気にする必要は全くありません。自分のレベルに合ったクラスを見つけるため、この日のテストは行われたのですが・・・。

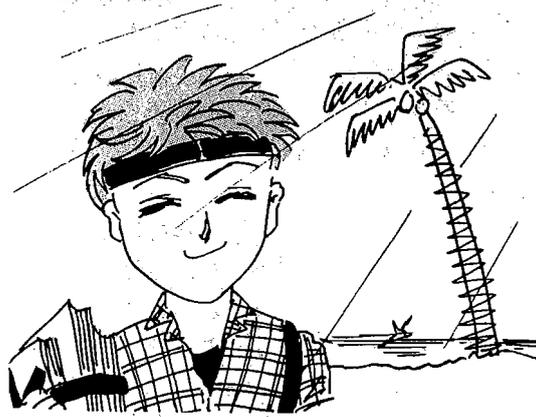
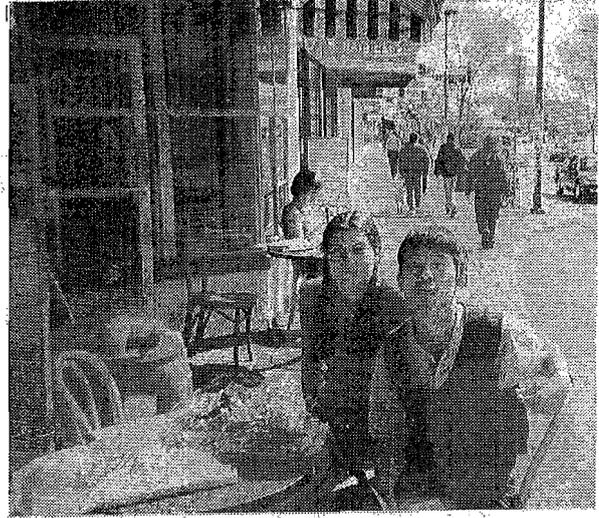
フィーラー・オーデトリウム（講堂）の会場に集まって来る人の多いこと多いこと！テスト時間は1時間半、もちろん僕も皆と一緒にペーパーテストを受ける心積りをしていたのですが、なんとその間建物の外で待たされる羽目になったのでした。理由は、点字では質問用紙が用意されていないので別の時間に口頭試問を行いたいとのこと。すっかり点字でも用意されていると思っていただけに鼻を挫かれました。

入学手続きをした際に、自分が点字を使用し、テキストやテストは点字で受けたいとの旨を手紙で書いて送っていたのですが・・・。何の返事も

もらわなかったもので、そのような類のことは日本と違いアメリカでは心配する必要は無かったのかと安心していただけに、この時は呆気にとられた気分でした。UCバークリーには障害者の学習環境をサポートするDSP（ディズエイブルド・ステudent・プログラム）というセンターがあると知ったので、早速僕はそこを訪れテキストの点訳やその他のことについて聞いてみました。視覚障害者の担当はジム。彼自身も視覚障害者でした。僕はテキストの点訳は実

際のところそれほど難しいことではないと考えていたのです。なぜなら英語の書物は読書機を使えば簡単にコンピュータのデータに変換することができるので、ただそのデータを点字でプリントアウトすればいいはずだからです。しかし、ジムの口から出た言葉は意外でした。大学で勉強している点字使用者はその読書機をテキストを点訳する道具としてではなく、ただ朗読させるために使うのだと言うのです。そして事実、前回のセメスター（アメリカの大学の学期）でDSPが点訳したテキストは僅か1冊。それもスペイン語のテキストだったからという理由です。日本の大学で点訳テキストを用いて勉強していた僕にとっては意外な事実を知って驚いてしまったというか、呆れてしまいました。

結局テキストに関してはELPが大学生や大学院生を3人リーダー（朗読者）としてアルバイトの形で雇ってくれたので、彼女達にカセットテープに録音してもらったり、対面朗読してもらったりして対処しました。リーダーのうち一人は弁護士を目指すのだという車いすの女性だったので、車いすに乗る人達にとってのバークリーの印象をいろいろ聞いてみようと思っていましたが、彼女とは相性が合わずプライベートな話はできませんでした。その時は特に彼女が車いすに乗っているからといって何も感じませんでした。今思うと、日本では障害を持つ人が他の障害を持つ人のサポートをすることは珍しいケースになるのかなあと考えます。ちなみに彼女達への支払いもELPがしてくれました。カリフォルニアでは障害者などが学校で勉強する際に必要になるアシスト経費は



スラッシュ・in・パークリー

州が出してくれるそうなのです。

テキストのことも大変でしたが、これまたショックだったのは辞書の件でした。図書館に行けば点字の英英辞典が使えると思い、図書館のカウンターで訪ねると「そんな物は置いていない」と言うのです。最後の切り札、DSPのジムに聞いてみると、「以前はみんな使っていたが、今は誰もがコンピュータで辞書を使うので点字辞書は図書館の倉庫にでもしまいこんでいるんじゃないかなあ」とさ。時代は進歩してはいたのでした。音声ガイド付き英英辞書機は500ドル前後、パソコンと音声装置を買えば少なくとも2千ドル近くは必要になるでしょう。いっそのことどちらかを買ってしまおうかとも考えましたが、それはやめることにしました。1週間後、ジムが見つめてくれたウェブスターの英英辞典のボリュームは36冊。しかもその大きさは、確かではありませんが、A3に近いサイズで厚さは10cmほどある代物でした。今まで倉庫に眠っていただけあって埃まみれというあり様でした。だれも使わないということ

で8週間の授業期間僕の部屋で使ってよいことになったのはいいのですが・・・、せっかくそれまでは広くて綺麗だった部屋も、その日から狭く埃っぽく様変わりしてしまったのだ。

コンピュータの話が出たのでついでに書いておくと、僕が会ったほとんどの視覚障害者はブレイル・アンド・スピークと呼ばれる音声出力で使用する電子手帳を愛用していました。おそらく学生ならば授業の際のノートテイクを、働いている人であればスケジュール管理や通信を、またあるソフトと併用すればIBMコンパチ機の音声装置としても利用できるもので横で見ていて羨ましくなりました。メモリーチップを交換すれば英語だけではなく、スペイン語・フランス語・ドイツ語・イタリア語・韓国語でもしゃべってくれるそうです。日本語のバージョンもあるとのことですが、音声聞いた限りでは、こっちはまだまだ実用的には使えそうもありませんでした。日本にはあのような音声出力が可能な手軽に持ち運ぶことのできるマシンがないだけに、う・ら・や・ま・し・い!

(続く)

バンガード
VANGUARD!活動報告

素敵にたくさん出逢えたから。。。

バンガード
視覚障害部VANGUARD!代表 亀山 英昭

バンガード
VANGUARD!の「視覚障害者アクセス・マップ」作成ACTが始まって、そろそろ5カ月が経過しようとしている。この計画を立て始めた頃からすると、もう1年にも手が届きそう……。長あ〜い、長あ〜い道のりをポツポツと踏みしめ噛みしめ、毎回新たな素敵に出会い続けている訳で……。

このFLANKERでは多分、12月に行われた視覚障害者歩行体験セミナーの報告以降のご無沙汰です。さていったいどうなっていると思われませんか？素敵に出逢い続けているということは取りあえず生き存えている訳で、パチパチパチッ！

年を改め「さあ、調査スタート！」と思いきや、我々が主要メンバーの品川君、アメリカはバークリーにバックレの巻！出発の見送りを済ませてメンバー一同いよいよ目前にした調査に向けての綿密な打ち合わせで1ヶ月を費やし、2月よりJR大阪駅の本格的調査を開始することとなった。

当初は何もかもが白紙からの第一歩、なんといってもこのような視覚障害者を対象に視覚障害者を持つ当事者自身がチームを組んで調査・作成するというのは初めての試み、砂漠をさまよう蟻さんモードといったところでしょうか？

さてさてどうとうやってきました2月11日、この日が、「ひえ〜、寒い……」の雄叫びとともに幕開けとなった初調査！

「いったい何人くらいの方が実際の調査に集まってくれるのお……？」不安たっぷり道連れに調査メンバーより一足早くやって参りましたJR大阪駅、中央コンコース、噴水横、交番前（今ではすっかりお馴染みになったこの一節）。

初めての調査ですから何をどうする？何から手をつける？などなど、頭ジャングル状態でのJR大阪駅、中央コンコース、噴水横、交番前。

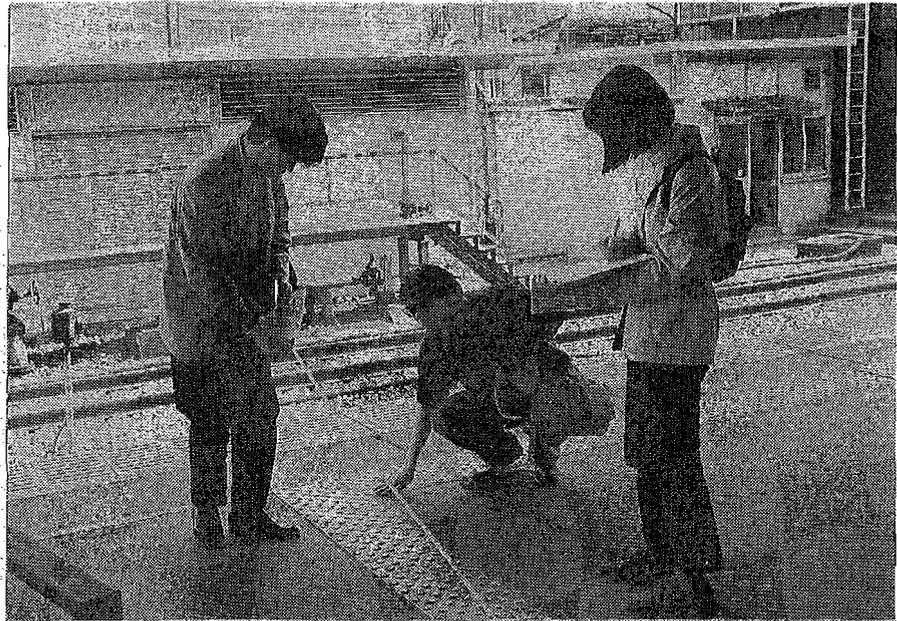
いやあ〜、感激！そこには20人を越える人が！この寒さの中、しかも休日にもかかわらず、こんなにも大勢の方にいらしていただけるとは夢にも思わず、涙チョチョ切れです。アクセス・マップ作成への皆さんの関心と意欲がヒシッ！と感じられ、それと同時にこの活動を進める必要と責任も！

この日、予定ではJRさんにマップ作成に向けての活動報告と協力依頼を行うことになっていましたが、都合によりポツ！「ええ、なんですか？都合というのは、…？」言えない、言えない！でもこの記事を読んでくれた貴方にだけ、こそっ！と「他の駅との絡みがありますので、大阪駅として受ける訳にはいきません。本社を通して欲しい」とのご連絡が、やたら腰の低い助役さんから当日の朝にありましたものでえ〜。

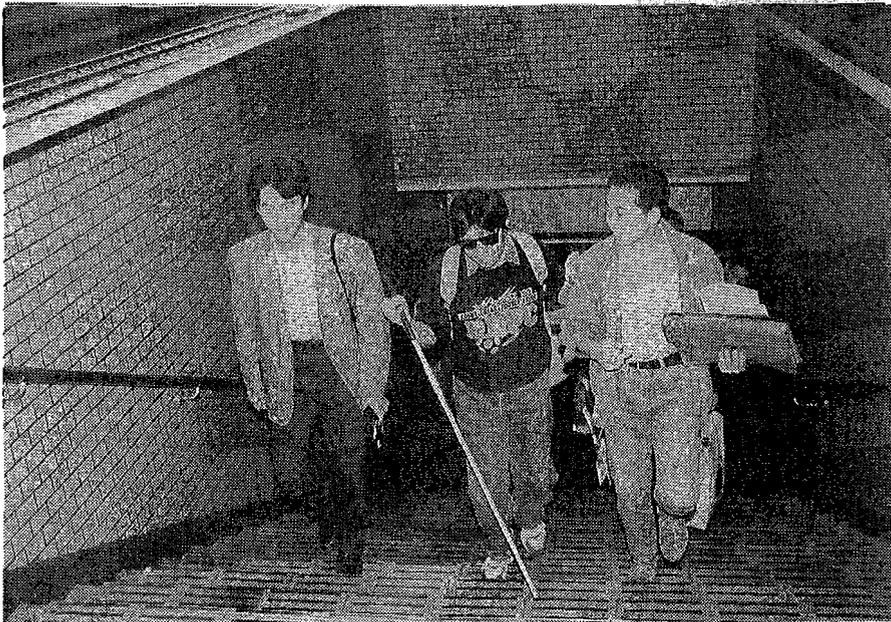
「やっばりなあ〜」と言うなかれ。今まで障害者（ボランティア）団体がそれなりに人数集まって駅に向かうというと、抗議！要求！というイメージが付きもの。結構ビビってしまうのもやむを得ないことかも？メゲないメゲない。実際、この活動をVANGの主旨のもと続けていこうとで解決することではあ〜りませんかあ。 (人よ！現実・事実・真実を見極めよ！) なんてね。

と、いう訳で、この日はマップ作成に向けて事前に配布していたマニュアルを元に実際に駅・構内を歩きながらの検証。「寒さがこたえる！顔がフリーズ状態、それにしても異様だ！」白杖を持って先頭を歩く僕、20人を越える人が「ふむふむ」と説明に頷きながら群なしぞろぞろ。(みんな気付いてくれているのだろうか？) プレ調査やそれまでも散々この駅を歩き回って情報を持っているから、こうして僕が先頭をきって歩いているらるということ……？

誘導ブロックが敷設されていたとしても、そのブロックは何処にあるの？何処に続いているの？



誘導ブロックの寸法は・・・？



いざホームへ

点字での運賃表、何処にあるの？どう行けば見れるの？ここは何番ホーム、何方面の電車が・・・？

検証と言いつつも、それ以上に如何に視覚障害者にとって事前情報が必要であるか？一般の情報から取り残されているのか？いくら（視覚障害者のために）設備だけを整えても無意味であるのか、だからこそこの活動が有為であるということを知って感じてもらいたい。

だって見えないのだから・・・。

2度目の駅出陣！さて、今回は皆さん前回同様に集まってくれるのだろうか？これからしばらくこの不安を引きずらないといけないと思うと、なかなか気分はコバルト・ブルー！しかし、2月というのにこのポカポカ陽気が気持ちを救いあげてくれる。それにしてもなんと人の多いこと、いったいこんなにも何処から湧いてくるのやら。そんなことに感心している場合ではない。皆さんからの支援金で根性決めて買ってきたメジャー登場、ジャカジャーンッ！構内の点字ブロック（あの黄